

就活で自分の天職を見つける方法

山本光世

奨励者紹介〔やまもと・みつよ〕

JOHNAN 株式会社代表取締役社長兼 CEO

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

(マタイによる福音書 5 章 13-16 節)

まず初めに、この歴史ある同志社礼拝堂にて、同志社大学が最も大切にしているチャペルアワーで、この奨励の機会を頂きましたことに、大変光栄に思います。そして、まさにこの時期に、この機会を頂いたことの意味を考えさせられます。ご存じの方々も多いと思いますが、新島襄先生が今から150年前に、米国バーモント州にあるグレース教会にて、同志社設立の目的をスピーチし、寄付金を募られました。そのスピーチを記念した礼拝が先月に、そのグレース教会にて行われ、同志社に関連する多くの有志の方々と一緒に、私はそれに参加する機会に恵まれました。そんな150周年という大切な節目に、この同志社礼拝堂にて、今私はこの場に立ちおまして。そんな大切な節目に、奨励をする機会を頂き大変光栄に思うものの、一方で、なんらかの奨励をしなさいとまるで神様に言われているようで、罪深くそして小さく弱い私が、人前で奨励をすることに、正直なところ困惑しています。ただ、こんな弱く小さい私であっても用いてくださる神様の愛を素直に喜びたいと思いますし、この場に当たっては主イエスキリストを信頼し、聖霊に身を委ねつつ、ざっくばらんに、私の思うことを率直に述べたいと思います。

私は山本光世と申します。1973年生まれの50歳で、今から約27年ほど前に同志社大学神学部を卒業しました。卒業後は、経営コンサルティング会社に3年程勤め、後に米国に渡り、University of Michigan の経営管理大学院に留学して、MBAを取得して、現在はJOHNAN (ジョウナンと読む) 株式会社を経営するという職業についております。JOHNAN は、私の祖父が63年前に、パナソニックさんの孫請けとして、はんだ付けの内職で創業された会社です。私は36歳に社長になり、現在は半導体の製造や医療機器の開発、自動車メーカーなどへの精密部品の設計製造、製造にまつわる人材の派遣事業など、多様なモ

ノづくりを行う会社への変革に携わってきました。最近では、他社製の壊れた設備や電子部品の修理事業を請け負う事業や、水中ドローンを用いてダムや湾岸の保守メンテナンスの事業に参入しております。私が社長になったころの2010年は、JOHNANの当時の売上は約60億円でパナソニックさんからの仕事が80%ほどを占めていましたが、現在はその割合はほぼ0%となり、現在はお客様が100社を超え、売上100億円程度となっております。私にとっても社員にとっても、大変な激動の10数年でした。当社よりも遥かに優秀な技術や優良なお客様がいる同業他社が突如倒産したことや、大幅な規模の縮小に追い込まれた会社をたくさん身近に見てきました。そんな中、JOHNANが今なお生かされている真の理由は、お客様から当社をご贖いくださっていることや、社員が一丸となって努力してくれていることはもちろん重要な理由ではありますが、それに加えて何かがあるように私には思えません。このJOHNANには、存続が許されているからこそ、何らかの天命があるのではないかとすら思うのです。また、私自身も経営に関する職業を25年近くやってきましたが、扱う製品やサービスは、その間、大きく変わりましたし、私自身の仕事も、社員教育や、企業買収や、工場閉鎖や、訴訟対応など、常にしごとは変化してきました。これまでに私は何度も、「私は何のために一貫して仕事をしているのだろうか？私の人生の目的はなんであろうか？」と自問自答したものです。仕事に携わるにあたって、自分の天職や天命を考えさせられ、またそんなことを考える時間さえ全くなく、ただただ日常に忙殺されることもありました。ちなみに、私が仕事に忙殺されていると、ちょっとした休憩時間に、チョコモナカジャンボというアイスクリームをコンビニで気が付くと買っていて、バリバリと音を立てながら、気が付くと二個ほどたべてしまい、一個にしておけばよかったと、後で後悔することがしばしばあります。みなさんにも、そんなことはありますでしょうか。

さて、今日の奨励のお題は、「就活で自分の天職を見つける方法」です。誰にも通用する方法が分かれば、ノーベル賞ものかとも思います。考えてみますと、人生には様々な節目があるようです。学生時代の部活、就活、婚活、最近では妊活、人生の終わりへ向けた終活すらあります。これらの節目には、三つの坂道があるとも言えそうです。上り坂（調子がいい時）、下り坂（調子が悪い時）、そしてまさかの坂（何が何だかわからない調子の時）。人生における就活は、とても重要な節目の一つですし、今の時代は人生に一度だけでもなく、何度かめぐる場合も多いようです。現代における就活は、一体どんな坂道なのでしょう。いまは、政治や経済や技術革新などを考えると、まさかの坂の連続のように思われます。何が何だかわからない調子が断続的に続いているということです。そんな中で、就活をするには、どのような準備が必要なのでしょう。自分の興味、得意なこと、希望の報酬や現実の報酬を考えることは大切です。就職先の求人情報から福利厚生や報酬を調べたり、ホームページで事業の内容を調べたり、親ガチャではなく上司ガチャなどに対応できる自分がいるか、と想像してそれらに備えることが必要でしょう。しかし、このまさかの坂が断続的に起こる現代においては、それだけでは足りないとは私は確信しています。自分の命を削ってでも、やり遂

げようとする仕事。いうなれば天職。その天職を探り続ける忍耐。その忍耐そのものを養うという準備が必要だと私は思うのです。自分の命を削ってでも、やり遂げようとする仕事、そんな仕事は簡単に見つからないように思います。ある時は、運命とも思える出会いと感じて、これが自分の天職であるように感じることもありますが、その人の心境が変化することや、与えられる仕事自身の目的そのものが会社によって変更することで、今となっては自分の天職ではないと感じることもあります。ただ、そう感じる時こそ、悲観的にならず、自分の外にある会社などのような組織や、自分の一時的な心の移ろいに振り回されずに、自分の命を削ってでも、やり遂げようとする天職を探り続ける忍耐は、自分の人生を切り開く際に本当に役に立ちます。人生の中で何度か訪れる就活の節目は、自分にあった天職を探り続ける貴重な機会となるのです。

ローマの信徒への手紙5:3-5.

「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。私たちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望は私たちをあざむくことはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

私はこの聖書の言葉と共に、静かに一人で祈り続ける中で、神様からの愛を感じ取り、苦難が忍耐を生み、忍耐は練達を生み、練達は希望を生むという奇跡を、私は体験させていただきました。最近では自分のキャリアを上げることが流行っています。それに合わせて、天職という言葉もよく聞きます。天職を意味する、英語の Calling を専門の辞書で調べると、「通常的に従事している職業または専門職」、「神聖な感化の確信が伴う内面的衝動による行為」といった意味があります。広辞苑によると「天から命ざれた職務」「神聖な職務」「その人の天性にもっともあった職業」という意味や宗教的なイメージがともなう職業であります。現代社会では、天職とは、「その人の才能や性格にもっともあった職業」のような意味合いで用いられていることが多いように思いますが、そういった意味での天職については、世の中には転職セミナーがありますので、そういったセミナーに任せたいと思います。私は今日、天職とは、あえて「天から命ざれた職務」と定義します。信仰を伴うような表現ですが、平たく言えば、「神様から命令された仕事」です。私には最近ですけど、とてもピンとくるのですが、ピンとこない場合は、「社会から・お隣さんから期待される、あなたならではの仕事」と考えてみてもよいと思います。今日の話において、天職の定義は、「神様から命令された仕事」とするか「社会から、お隣さんから期待される、あなたならではの仕事」とするかは、私の話を聞いてくださる皆さんにお委ねします。

本題に入りますが、就活で自分の天職を見つける方法ですが、私なりの方法をご紹介します

ます。3つあります。一つ目は「生成AIを相手に千本ノックを打つ」ということです。皆さん、生成AIはお使いになられますか。私は、オープンAIのチャットGPTや、グーグルのGeminiや、マイクロソフトのcopilotを使い分けます。生成AIって本当にすごいですね。グーグルの検索エンジンが出てきたような衝撃が世界で起こっています。もし機会があれば、皆さんも積極的に使ってみてください。例えば、GoogleのGeminiに対して、「あなたは現代の天職意識を調査しているキャリアコンサルタントです。自分の天職を見出す方法を世界にある研究調査結果を参考にして、概要をまとめてください。」と質問を投げかけます。こういった設定と質問はプロンプトと呼ばれます。5-10秒ほどで、A4で1-2枚程度で、まとめられた概要が出てきます。このようにプロンプトつまり質問を、まるで野球の守備の練習で1000本のノックをするかのように、投げかけるのです。たとえば、1日10本のプロンプトだと100日で1000本ですし、1日100本頑張れば、言い換えれば一時間に10本を10時間ですね。それだと10日で1000本となります。このように先端技術である生成AIを用いて、1000本の質問を投げかけ、生成AIからの回答を参考に、すぐに諦めるのではなく、問い続けるのです。とても忍耐と体力のいる取組ですが、かなりの精度で、自分にとってそれなりに納得して、何を考えればよいのかについて、概要を導き出すことができます。千本ノックは相当な忍耐が求められます。しかし、難しくはありません。2つ目は「自分の死生観を持つ」とことです。いずれ自分が死ぬことを想像し、死後の世界を考え、また死ぬまでの間にどのように生きるか、行きたいか、生きるべきかを考えるのです。これを考え続けることは容易ではありませんが、工夫はできます。死生観に関する本はたくさん出ています。死後には輪廻転生の考えをもつ宗教や、死ねば肉体も魂も消滅して何も残らないという考え方もありますし、キリスト教のように死後には天国や地獄など、最後の審判を受けて別の世界で永遠に生き続けるという考えもあります。自然の中に返るという死生観もあります。人によってそれぞれ死生観は異なりますし、同じ人間であっても時を経る中で死生観が変化する場合もあります。いずれにせよ、死生観をもつことで、死を前にして如何に生きるべきかを考えるきっかけになることでしょう。それによって、他人はともかく、自分自身の限りある命を用いて、何の仕事をするかを考えるきっかけになります。私は実の母を交通事故で5年ほど前に急になくし、実の父は2年半ほど前に心筋梗塞で急になくなり、両親には「生んでくれてありがとう」と伝えることができませんでした。親孝行も今更ながらもっとやってあげたかったと思うのです。私は内村鑑三さんの「後世への最大遺物」という本に出会い、本の中に、「キリスト者は死んだあと天国という本番の人生が待っている。よって、今生きているこの世は予備校のようなもので、思う存分自らの天命を全うするのがよい」といったような言葉に出会いました。私はキリスト者ですので、この死生観がとてもピンときて、共感しましたし、「そうか、この世での私の体や心は言ってみれば、神様からの預かりもので、自分の体を用いて、思う存分に自由に生きるだけではなく、社会に仕えよう。」と思えるようになりました。死後の世界を自分になりにもつことは、この世でどのように生きるべきかについて示唆を与えてくれます。最後に3つ目は、静かに祈る時間を持つことです。祈り方はぜひ、教会の牧師さんに聞いてみてください

い。一緒にお祈りして下さることでしょう。内なる自分の声を探ってみる、神様の愛に気づく、そんな体験は、生成AIでは出来ない、聖霊よる魂への働きかけでしょう。

以上、「就活で自分の天職を見つける方法」と題して、奨励をざっくばらんにお話をさせて頂きました。ご清聴ありがとうございました。最後になりますが皆様それぞれに、神様からの豊かな祝福がありますように。

参考資料リスト

・「働き方の哲学」 著者：村山昇 出版社：株式会社ディスカバリー・トゥエンティワン

自分にとって天職とは何かを考える前に、「そもそも、働くこととはどういうことか」と自分に問いかけ、考え続けるにおいて有効。ワークブック形式で親しみやすく、自分の考えを導き出し整理するにおいて効果的。天職について考えるワークシートやチェックリストも参考になる。

・「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 著者：マックス・ウェーバー 翻訳者：大塚久雄 出版社：岩波文庫

同志社の学生であれば、生涯で一度は読破してほしい社会学の大著。「営利の追求を敵視するピューリタニズムの経済倫理が実は近代資本主義の生誕に大きく貢献したのだという歴史の逆説を究明した画期的な論考」。解説本の助けて、私はなんとか読破。天職の概念も考察されている。

・「『天職観』の歴史的変遷過程に関する一考察」 著者：三宅章介

日本語の「天職」、ドイツ語の「Beruf」、英語の「Calling」など、天職の概念に関して、歴史的にどのように変遷してきたのかが考察されている。欧米における概念だけではなく、儒教などの影響をもつ日本において、天職についての意識がどのように形成されてきたのかが考察されている。

・「かこむ みる つくる」 発行者：JOHNAN 株式会社 「JOHNAN VISION 2050」 発行者：JOHNAN 株式会社

個人にとっての「天職」ではないが、JOHNAN 株式会社では法人としての存在理由や、2050 年における会社が目指すビジョンを明記している。いふなれば、法人としての「天職」もしくは「使命」と言い換えてもよい。山本光世による実践事例として、ご参考まで。就職活動をする際は、関心ある組織の存在理由やビジョンを調べよう。自分のスキルや経験や関心がマッチングするかに留まらず、自分の天職観と重なるところがあるかを考察することは、自分の天職を見つけるに際して有効な手段。

